

脳血管障害の具体的な症例

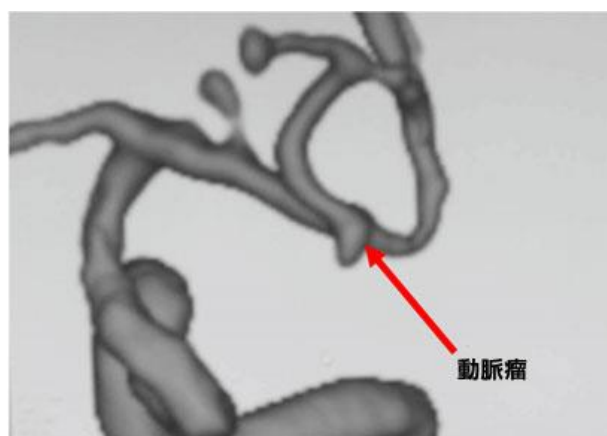
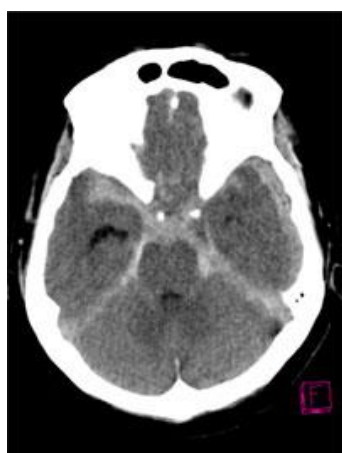
— 中大脳動脈

【症状】

頭痛があり、その後すぐに一過性の意識消失が見られました。意識回復後も返答が曖昧であるなどの症状が続いたため当院に救急搬送されました。

【所見・治療】

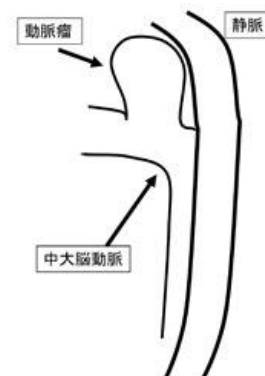
CT ではくも膜下出血と急性硬膜下血腫を認め、MRA で中大脳動脈瘤を診断し、緊急開頭術で動脈瘤ネッククリッピングを行いました。



3D-血管造影



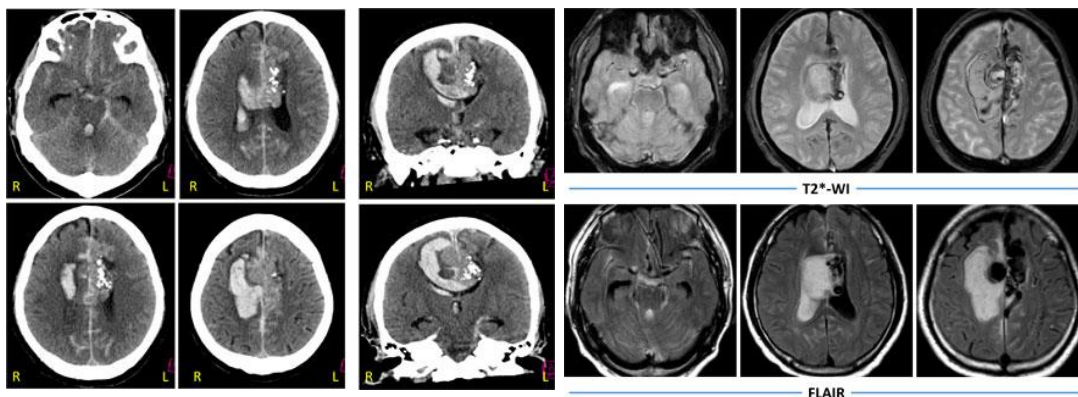
術中写真



— 脳動脈奇形

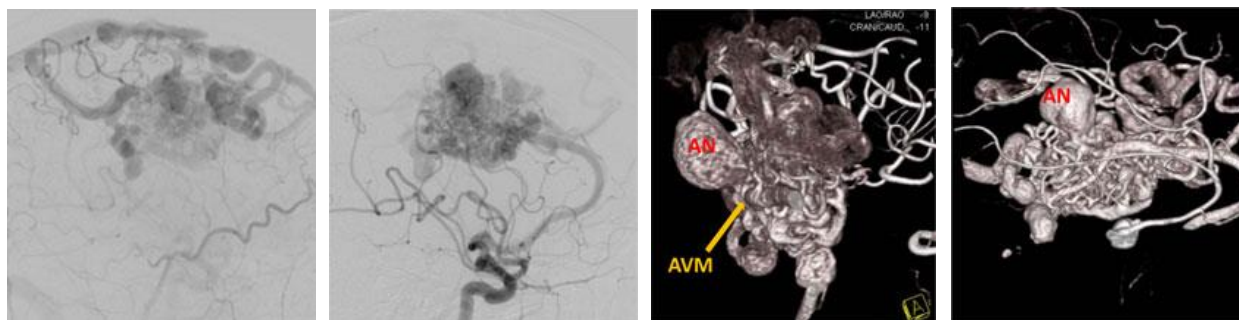
【症状】

突然意識消失し、左完全片麻痺の症状。頭蓋内出血があり、血管評価では脳動脈瘤と脳動静脈奇形を認めました。脳動脈瘤が破裂したものと考え、脳動脈瘤をコイル塞栓し、状態が安定したところで脳動静脈奇形を液体塞栓材料(Onyx)で塞栓し、全摘出を行いました。



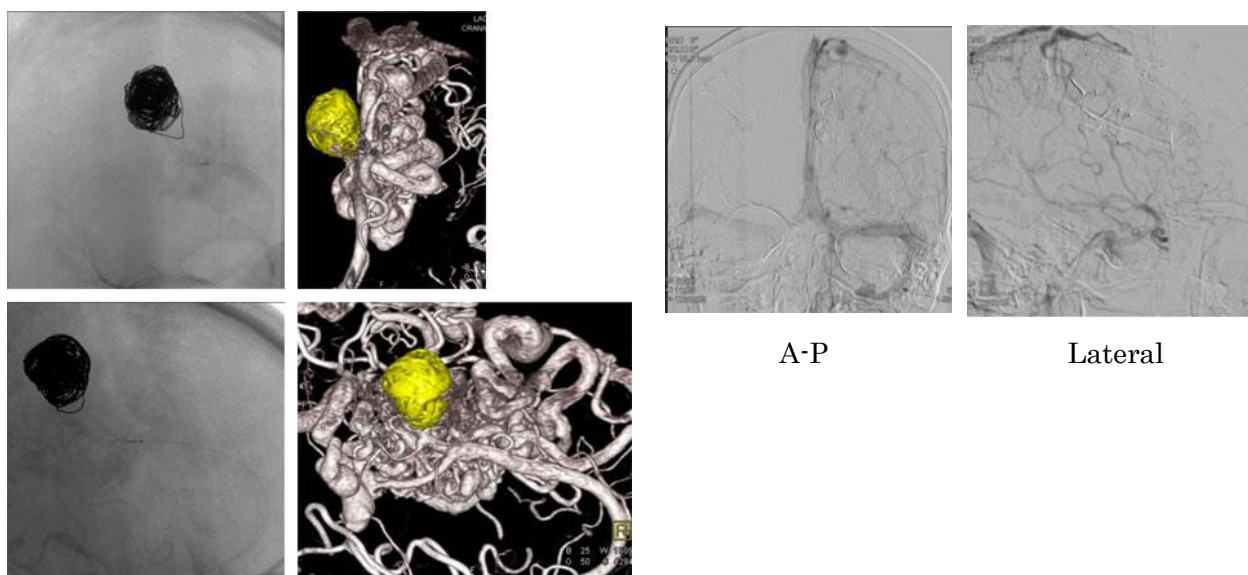
来院時 CT

来院時 MRI



AVM(脳動静脈奇形) と AN(動脈瘤)

AVM 摘出後 Lt. CAG (カテーテル検査)

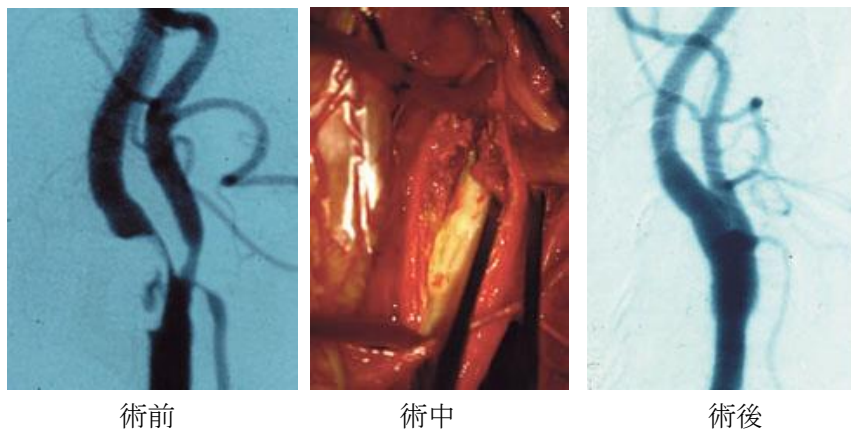


破裂した動脈瘤はコイル塞栓術で治療

その後 AVM を Onyx で塞栓術を行い、AVM 動脈瘤とともに開頭術で摘出しました。

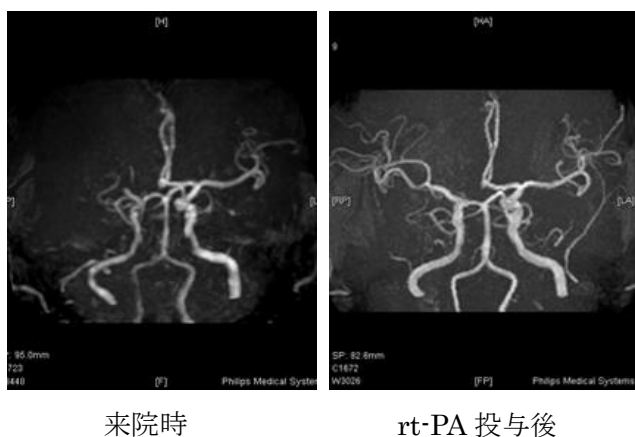
— 頸動脈内膜剥離術

MRI の普及で頸部頸動脈の狭窄性病変の発見される率が高くなってきました。狭窄の高度なもの（75%以上）、狭窄部に潰瘍の認められるもの、塞栓源と考えられるものは手術の対象となります。頸動脈内膜剥離術を行った症例です。



— 急性期血栓溶解術

最近、急性期血栓溶解術が注目を浴びています。発症 3 時間以内に薬剤（rt-PA）を静脈注射すると高確率で血栓が溶け再開通の得られることがあります。血栓溶解剤の投与は早いほどよく、全快する例もあります。60 代前半の女性は左片麻痺で発症し、約 2 時間で来院されました。急性期血栓溶解療法を行ったところ、数時間後より症状は改善し約 2 週間後、独歩退院されました。



— 硬膜動静脈瘻

特殊な例として硬膜動静脈瘻があります。これは開頭術で治療することができず、血管内治療のよい適応となります。50 代後半の男性で耳鳴りと視力障害を主訴に来院されました。血管造影で硬膜動静脈瘻を認めコイル塞栓と液体塞栓物質で治療しました。数回の治療でほぼ完治しました。

